

付箋紙に促されて発想すること

7並べ方式

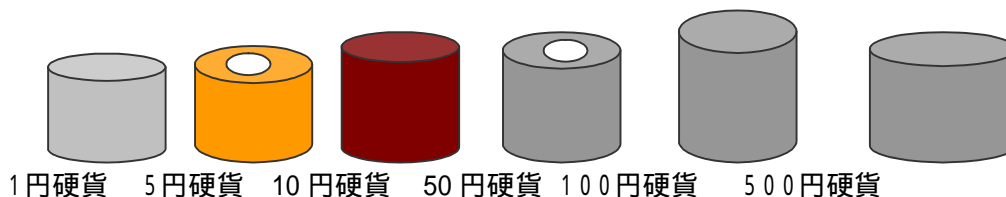
付箋紙と模造紙を使ったグループ討議をする際、意見等を書き込んだ付箋紙を出していくときに、「7並べの方式」がよく使われます。

最初の人か、付箋紙に書いた内容を読み上げて模造紙に貼り付け、それと似た内容を書いた付箋紙を持っている人が、最初の付箋紙に並べて自分の付箋紙を貼り出していくという方法です。トランプの7並べで、7の左右に6と8を置き、さらに5と9を置くのと手順が似ています。この方法だと似たような記述内容の付箋紙が自然と並んでいくので効率的です。

小銭勘定方式(市民権を得た言い方ではありませんが)

硬貨を取りまぜて100枚以上準備し、それを机の上にプチまけてみましょう。

すると、まず、ほとんどの人が、硬貨を種類ごとに集め、積み上げる作業をはじめます。しかも、種類ごとに10枚ずつの山を作り、最後に合計金額を計算します。私たちは、条件反射的に、そのような作業をしてしまいます。



付箋紙を使ったグループ討議では、多くの場合、まず付箋紙(意見等)のグルーピングを行ないません。それは、基本の必須作業と言えます。グルーピングすると、皆が見やいようにはなりません。しかし、それは意見などの一覧表に過ぎません。小銭のように、「意見の総額」の勘定ができるわけではありません。そのように感じ、付箋紙を使ったグループ討議に限界を感じている人は、次のレベルの作業に挑戦してみてください。

小銭を観察してみよう

お金の総額を勘定するという条件反射は止めて、一度硬貨をじっくり観察してみましょう。

まず気づくことは、硬貨の輝きです。ピカピカのもの、くすんだものがあります。硬貨を輝くものから順に並べて見ましょう。その結果、「100円硬貨は、鑄造されて2年くらいは結構ピカピカだけど、それを過ぎると輝きを失う」という法則を発見できるかも知れません。



さらに次のレベルでは、「硬貨を鑄造年の順に並べてみたらどうなるだろう？硬貨が鑄造後何年で輝きを失うか、その法則を発見できるかもしれない！」と発想できる人になりましょう。グループ討議では、出された付箋紙を総体的に見て、このような視点でグルーピングしたら何か法則を発見できるかもしれないと予想し、何通りも試します。これは、発想力の訓練です。